

2024年度大阪公立大学公開講座

人類と感染症との戦い

～薬剤耐性菌の脅威と制御～

新型コロナウイルス感染症は世界的規模での大流行（パンデミック）となり、社会生活に大きな影響を及ぼしました。現在は5類感染症と位置付けられ、以前の社会に戻っているかのように見えます。しかし、インバウンド増加や大阪・関西万博によって新たな感染症の流入、特に「薬剤耐性（AMR）*」の拡大が危惧されています。本講座では、人類にとって今後大きな脅威となる薬剤耐性菌と、パンデミックに対するデータ分析について最新の研究と知見を紹介いたします。

*特定の種類の抗菌薬（抗生物質や抗生剤）が効きにくくなる、または効かなくなること。耐性を得た細菌は「耐性菌」と言う。

詳細は裏面をご覧ください▶

2024年

10/5 SAT ~ 12/21 SAT 10:30-12:00 各土曜日/全6回



- 会場：大阪公立大学 I-site なんば 2階（大阪市浪速区敷津東2-1-41 南海なんば第1ビル）
- 定員：60名（申込者多数の場合は抽選） ■ 対象者：どなたでも ■ 受講料：5,000円（全6回分）
- 申込方法：下の(1)(2)いずれかの方法でお申し込みください。

(1) 申込フォーム：本学Webサイトまたは右記二次元コード「申込フォーム」からお申し込みください。

(2) 往復はがき：往信用はがきに①氏名（フリガナ）、②年齢、③郵便番号・住所、④電話番号、⑤このチラシの入手先をご記入の上、下記宛先へお送りください。

※返信用はがきは両面とも白紙でお送りください。

（宛先）〒556-0012 大阪市浪速区敷津東2-1-41 南海なんば第1ビル
大阪公立大学 社会連携課「人類と感染症との戦い」係

※受講の可否は9/25(水)までに通知します。届かない場合は必ずお問い合わせください。

- 問合せ先：大阪公立大学 社会連携課 Tel 06-7656-5112 Fax 06-7656-5203

※感染症の流行や自然災害等の影響により、日程・開催方法・講座内容が変更となる場合があります。

申込フォーム▼

申込締切
9/16(月)
必着



大阪公立大学
Osaka Metropolitan University

大阪公立大学 生涯学習・公開講座Webサイト▶

大阪公立大学 公開講座

検索

※お申込みの際の個人情報は、申込後の事務連絡、統計資料等の作成および本学公開講座等のご案内に使用いたします。利用目的以外の使用については、一切いたしません。

◆大阪国際感染症研究センター◆

大阪国際感染症研究センターは様々な分野の専門家が集い、異分野融合型の「マクロ感染症学」を実践する人材の育成と研究の拠点です。大阪府市の政策提言に繋がる感染症対策の科学的根拠を国際的見地からも提供します。

第1回 10月5日 (土)

薬剤耐性菌を知ろう

講師：金子 幸弘 (大阪国際感染症研究センター・大阪公立大学 医学研究科 教授)



2020年以來のCOVID-19パンデミックにより社会は甚大な打撃を受けましたが、薬剤耐性菌 (AMR) はサイレントパンデミックとして懸念されており、その影響は将来的にCOVID-19を上回る可能性があります。AMRシリーズ講演の第一弾として、基礎的な知識とその重要性について、自作のオリジナルキャラクターを用いながらわかりやすく解説いたします。

第2回 10月19日 (土)

薬剤耐性菌伝播における伴侶動物の重要性

講師：安木 真世 (大阪国際感染症研究センター・大阪公立大学 獣医学研究科 准教授)



薬剤耐性菌対策はヒトだけで完結できるものではなく、周囲の動物や環境を含めた取り組みが必要です。本講義では、伴侶動物 (ペット) の耐性菌保有状況やヒトとペットの間で起こりうる耐性菌の伝播について最新知見を交えて紹介します。

第3回 11月2日 (土)

グローバルな視点から見た、家畜への抗菌薬使用と薬剤耐性菌について

講師：山崎 伸二 (大阪国際感染症研究センター副センター長・大阪公立大学 獣医学研究科 教授)



抗生物質は細菌感染症の特効薬として多くのヒトの命を救ってきました。一方、家畜においては治療のみならず、成長促進の目的で健康な家畜にも抗生物質が使用されています。家畜に対する抗生物質の使用状況と薬剤耐性菌問題を含めその功罪について紹介します。

第4回 11月16日 (土)

パンデミックに対する社会の反応：オルタナティブデータを用いた分析

講師：黒田 雄太 (大阪国際感染症研究センター・大阪公立大学 経済学研究科 准教授)



効率的な感染症対策のためには、感染症や政策が社会に与える影響を分析することが重要ですが、既存の政府統計ではリアルタイムに変化する状況を分析することが困難です。そのため、近年は携帯電話の位置情報のようなオルタナティブデータの活用が盛んになっています。今回はコロナ禍における実証研究の結果を紹介します。

第5回 12月7日 (土)

紫外線・放射線を用いた殺菌法と殺菌ストレスで発生する損傷菌の制御理論

講師：朝田 良子 (大阪国際感染症研究センター・大阪公立大学 工学研究科 准教授)



殺菌とは何か、従来の加熱や薬剤の他、紫外線、放射線を用いた殺菌方法について説明します。また、食品業界では、殺菌処理後も死滅せず損傷を負った「損傷菌」は、環境次第で増殖能を復活し、食中毒や腐敗の原因となるリスクがあり問題となっています。本講義ではその損傷菌とその制御理論の研究について紹介します。

第6回 12月21日 (土)

細菌に感染するウイルス、バクテリオファージ。薬剤耐性菌に対する切り札になるか？

講師：植松 智 (大阪国際感染症研究センター・大阪公立大学 医学研究科 教授)



既存の抗生物質が効かないたくさんの薬剤耐性菌が出現し、国際的な問題となっています。バクテリオファージは、細菌に感染するウイルスで、感染過程で細菌を溶かす酵素を持っています。こういった酵素の遺伝子をゲノム解析から探索し、新しい治療薬にする開発を行っています。薬剤耐性菌を迎え撃つ新しい研究を紹介します。